

雪で冷却 データセンター

湯沢町に今春

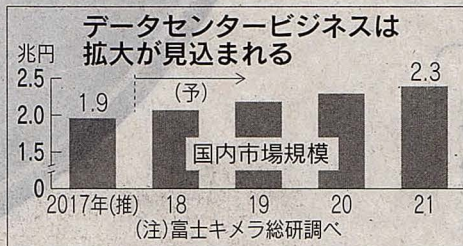
空調電力抑制

電気設備施工などのアオスフィールド(新潟市)は4月、湯沢町に雪を冷却用空調に活用したデータセンター(DC)を稼働させる。2016年に津南町で同様のDCの実証実験を始め、省エネなどの効果が見込めるため本格的な設置を決めた。まずは自社で仮想通貨を得るためのマイニング(採掘)用DCとして活用するほか、IT企業向けDCとしても売り込む。



IT企業などにもデータセンターを売り込む(津南町での実証実験)

アオスフィールド



4月に稼働させるのは「湯沢ITコンテナフィールド」。総敷地面積は約3000平方メートルで雪室のほか、IT(情報技術)ベンチャーのゲットワークス(さいたま市)が提供するコンテナ型のDC 5台を設置する。総事業費は約3億円。

冬に雪室にためた雪を夏場にサーバーなどの機器の冷却に使い、消費電力を抑える。一般的にDCはサーバーを動かす電気代とほぼ同額の冷房費がかかるという。アオスフィールドによると、同社の雪室を活用したDCは冷房費がほとんどかからないため、通常のDCに比べ電気代が半分になり、安価にDC

を運営できる利点があるという。4月にDCを稼働させるとともに、自社で仮想通貨のマイニング事業を始める。マイニングは取引記録を台帳技術「ブロックチェーン」に記録する作業。報酬として仮想通貨を受けとれる。仮想通貨の市場拡大とともに、GMOインターネットなどの日本企業がマイニング事業に参入している。取引の記録には膨大な計算を処理する必要があり、消費電力も大層だ。アオスフィールドはまず5台のDCを活用してマイニングを始めるとともに、同様にマイニング

をする企業にDCの利用を売り込む。需要にあわせてDCを増設する。同社によると、国内では電気代やDCの賃料が高いため、マイニングで利益を出すのが難しいという。運営費が安い雪冷熱を使ったDCへの潜在需要は大きいとみる。

まずはマイニング関連で年間1億円以上の売上高をめざす方針だ。マイニングに加え、クラウドサービスなどのIT企業向けのDCとしての需要も見込むほか、雪室に使ったコンテナで日本酒や野菜などを貯蔵し、販売する事業も計画している。

同社の17年7月期の売上高は約3億円。民間調査会社の富士キメラ総研(東京・中央)によると、データセンターの利用料など国内市場規模は21年に16年比約3割増の2兆3895億円に膨らむ見通し。新潟県内ではDC運営

のデータドック(長岡市)も雪をサーバーの冷却に使う「新潟・長岡データセンター」(同)を2日から稼働させている。アオスフィールドやデータドックのDC事業が軌道に乗れば、県内の新しい産業として盛り上がりそうだ。